

原発避難者の声を聞く(3)

・このまま3年、4年と(富岡の自宅を)ほったらかししたら、それこそ本当に住めなくなる。富岡町が「戻ってもいいよ」というタイミングで、少しでも自分の家を直しながら、あるいは富岡町の復興をお手伝いしながら、そこに携わりたい気持ちもあります。

(世帯主)

・(土地を)放してしまうと、やっぱり子どもの未来がなくなっていくということを、やっぱり親も考えて行動しないと富岡町にはならないということだよ。(高齢者)

・(会社や仕事は)せっかくつくり上げてきたものだし、(それらを自分が)引き継げば町(へ)の貢献にもなるし、復興の貢献にもなるし、気持ちは前向きです。(世帯主)

・ある世代(高齢世代)の方ばかりが固まって、若い世代は戻ってこないという、そういう年齢構成の町になってしまうのではないかと。(世帯主)

・我々の年代が戻ったんでは、富岡は機能できないと思うんですね。ですから、これから若い人が帰るような方法をとってもらわないと、富岡に帰る人は少なくなっちゃうんじゃないかな。(高齢者)

・「この地区は帰ってもいいですよ」と言われたとしても、地震と放射能で、そのまま避難しましたので、いくら生まれたところでも、そういうところにはやっぱり帰りたくないです。(子育て女性)

・若い人が帰ってこない、町自体が存続できないというのはみんなわかっていると思う。じゃあ「自分の子どもを10年後(町に)帰すか?(子どもに)住んでほしいか?」って思ったら、(自分は)住んで欲しくないと思う。(世帯主)

・「いかに若い人を戻さないか」という発想の方が俺は大事だと思うんです。だから、町が成り立つか、成り立たないか、それは別の問題だと思うんです。(高齢者)

・(最終)処分場、これを早く決めていただかないと私は進まないと思っています。財物賠償も当然でしょうけど、金がないことには動けない人もいるでしょうけれど。まずは場所の確立、処分場の確立、それがあって初めて、これからの復興が前進するのではないかと。(高齢者)

・いわきに家を建てて住むことはできなくはない選択ですが、それをして本当に2年後、3年後富岡に戻りなさいって言われたら、(いわきに)建てた家はどうするのという問題もある。その葛藤というのが非常にあります。(世帯主)



・新しい家を建てるなら建てるで、自己資金なり賠償金なりを、そこで使っちゃっていいものかどうかなという迷いがある。(世帯主)

・子どもたちが成長して行って、その(人生の)節目みたいなところに当たったときにしか次の行動を考えることができないのが(自分たちの)今の生活なので、もっと町自体が「富岡町はこうします、ああします」というものを示してくれば、その中でまた自分たちの生活を考えた上で、「町(民)として一緒に富岡町の住民としてやっぺいこうとか、やっぱり富岡町の住民じゃなくて、今住んでいるところに行こう(選ぼう)とか」というふうに決められるんじゃないかなと思う。(子育て女性)

・帰還させるということは、本当に安全安心になってからはじめて国は「避難の皆さん、お帰りくださいと(言える)。それを何もしないで、一方的に三つの区分に分けて、安全なところは後で除染しますから、立ち入りは自由、ただし宿泊は認めませんよと(国は言う)。これではちょっと本末転倒ではないか。(高齢者)

・仮置き場ですら、これは最終(処分場)だなど見ちゃう。(廃棄物を)積み重ねて、埋めて、その上にまたやっている。あれをまた掘り起こすといったら、すさまじい人夫と金(の必要)が半端じゃないんですよ。間違いなくあれは(最終)処分場、帰り(帰還)の判断は行政のエゴでしかない。(世帯主)

・国はまるで責任を果たしていないというか、国民を守るというスタンスがとれていない。むしろ(我々を)見殺しにしようとしているとしか自分は思っていないけど、そこにどう抗っていけるか悶々としていた。(世帯主)

・町民の意見をまとめるとか言われるけれども、これだけいろいろ、ばらばらになってしまった中で考えをまとめるルート(をつくる)というのは、すごく見だしにくい。(世帯主)

・町の施策としていろんなことをやっぺいこうとしたときに、その予算はどこから来ているんですか。(結局)最終的には国の言うことを聞かなきゃいけない。(世帯主)

・精神的にも身体的にも疲れてしまった。本当に避難生活は限界ですよ。もうね、何もかも。今までは「我慢していればいつかは……」という浅はかでも希望がありましたけど、(もはや)希望がなくなりましたから。(高齢者)

・ふつうの生活というのは、ふつうにみんな家族で働いて、みんな収入を得て……一般の家庭がやっている生活、夫婦で働いて……働きたいということです。(世帯主)

・その「ふつうの生活」がなかなか現実問題(として)うまくいかない。そうしたくてもできない状況が今も続いている感じです。(世帯主)

・避難したことで自分たちが失ったものっていうのが、お金では換算できない、いろんなものがある。(子育て女性)

(2015年6月19日)